

短期留学生日本語プログラム 平成18（2006）年度

衣 川 隆 生

1. プログラムの概要

短期交換留学生のみを対象として開設されてきた短期日本語コースは平成16年度をもって廃止され、平成17年度からは全学向け日本語プログラムに統合された。本年度はその2年目となる。開講期間、開講クラス等のコース概要に関しては、全学向け日本語プログラムの報告を参照いただきたい。本報告においては、短期留学生を対象として行っている独自のプレースメントテスト、登録・成績状況を概観し、短期留学生日本語プログラムの課題を検討する。

2. プログラムの内容

(1) プレースメントテスト

短期留学生のみを対象に筆記テストと面接によるプレースメントテストを実施している。受験者は進級先のレベルよりも上のレベルで学習することを希望する継続学生と、日本語学習経験がある新規学生である。前期には短期留学生53名（継続生29名）中19名（継続生5名）が、後期には58名（継続生11名）中39名（継続生3名）がプレースメントテストを受験している。面接に際しては面接官2名と記録係2名を配置し、2カ所において7分ずつのインタビューを実施している。

(2) 試験と成績評価

シラバスに明記されている評価項目と配点は各クラスとも表1の通りである。

表1 評価項目と配点：

Oral Test (mid-term)	10%
Oral Test (final)	20%
Written Test (mid-term)	10%
Written Test (final)	20%
Quiz	10%
Homework	10%
Attendance	10%
Class Performance	10%
Total	100%

(3) 登録・成績状況

表2は標準コース、表3は集中コースの登録者数及び成績である。これらの表から、前期では87%に相当する46名（聴講学生5名を含む）が登録をしていることがわかる。後期においてはその数はさらに増え、98%に相当する57名（聴講学生4名を含む）が登録している。この登録数からも短期留学生にとって日本語プログラムが留学の重要な要素を占める不可欠な科目であることがわかる。

次に成績状況を報告する。受講者103名中聴講学生9名を除いた94名の成績は、A*またはAが71名（76%）、B、Cがそれぞれ10名（11%）、不合格が3名（3%）であった。

この結果を昨年度の成績（Aが73%、Bが19%、Cが7%）と比べてみると、Aが微増してはいるものの、Bの比率が減少し、その分C、不合格の比率が増加している。一昨年の成績（Aが83%、Bが13%、Cが4%）と比べてみてもその低下傾向は継続していると推察される。昨年度の報告では、成績の低下の要因として、新しく開設された集中コースがあるのではないかという懸念が示されていた。この成績低下傾向については今後の課題で検討する。

表2 標準クラスの登録状況と成績

	SJ101		SJ120		SJ200		SJ201		SJ202		SJ300		SJ301		SJ302		合計	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
中国		2	1		1						3						2	5
台湾											1		1				1	1
韓国										3	1	5	3		1		5	8
タイ	1																1	0
インドネシア		1											1				0	2
ウズベキスタン						1											0	1
フランス			2								2						4	0
イギリス	1		1								1						3	0
ドイツ	2			1													2	1
スエーデン								1									0	1
アメリカ	1			2					1			1	1				3	3
フィリピン		1															0	1
合計	5	4	4	3	1	1	0	1	1	3	5	9	4	2	1	0	21	23
成績 A*			1					1		1	1	2	4		1		7	4
成績 A	4		2							2		5		1			6	8
成績 B				1		1			1		2						3	2
成績 C		2	1	1													1	3
不合格		1		1													0	2
聴講	1	1			1						2	2		1			4	4
	5	4	4	3	1	1	0	1	1	3	5	9	4	2	1	0	21	23

表3 集中クラスの登録状況と成績

	IJ111		IJ112		IJ211		IJ212		合計	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
中国		4	1	1	2	1			3	6
韓国	3	1			3	2		3	6	6
タイ				2	1				1	2
インドネシア				1			1		1	1
ウズベキスタン				1					0	1
ポーランド		1			1				1	1
フランス		2	1		1	3		1	2	6
イギリス				1			2	1	2	2
ドイツ	1				1	1			2	1
スエーデン		1							0	1
ベルギー				1	1				1	1
アメリカ		2	2	2	1		1	1	4	5
オーストラリア			1		1				2	0
オーストリア		1							0	1
合計	4	12	5	9	12	7	4	6	25	34
成績 A*	3	6	1	2		3		2	4	13
成績 A	1	3	3	6	8	2	2	4	14	15
成績 B		1		1	2	1			2	3
成績 C		2			2		2		4	2
不合格						1			0	1
聴講			1						1	0
	4	12	5	9	12	7	4	6	25	34

3. コースの総括と今後の課題

上記、登録・成績状況でも述べたように、短期留学生にとって日本語プログラムは有意義な留学を送るためにも不可欠な科目であることが今年度の登録状況からも推察される。また、昨年度の報告ではIJ111へ学生の登録が集中することに懸念が示されていたが、今年度においては前期のIJ211、後期のIJ111の12名が最大の登録人数であり、特に集中傾向は見られなかった。また、これらのクラスを希望する学生が多くなることは想定されていたため、事前にa、b 2クラス体制をとっていた。但し、今後は非常勤予算の削減によって2クラス体制を継続することは困難になることが予想される。特に学習支援が必要な初級や会話クラスにおいては、昨年度の報告でも提言されているように、学内外の人的リソースを活用し少人数のグループ学習なども取り入れることが必要であろう。

また、上で指摘した成績の低下傾向に関しては以下の原因が考えられる。集中コースでは、同一期間で標準コースの2倍の内容を学習するため、消化しきれないままコースが進んでしまい、その結果徐々に進捗について行けなくなる学生が多い。これはプログラム終了後の反省会でも指摘されている。また、初中級以上のレベルにおいて総合的、平均的に日本語能力を伸ばしていくことが難しい学生も多い。例えば、会話クラスに関しては積極的に参加し良い成績を得る学生であっても、読解や文法においては語彙や表記の学習がコース進捗についていけない場合もある。さらに、専門科目との登録と重なっているため、ある技能のクラスだけ出席できないという場合もある。現在の体制においては集中コースも標準コースも総合で成績を出しているため、ある技能の成績が低い場合は、全体の成績も下がる傾向が見られる。今後は、技能別科目の登録方法を検討することも必要である。